



ここ数年に亘って次々と梅の木が枯れ始めた。昨年はあるなにも元気で見事な花を咲かせくれたのに不思議なことだと思っていた。その原因を素人考えで、あれやこれやと考えてはみたが、やはりこれだという確信は得られなかった。

そして今年、ついにその兆候は飛龍梅にもみられるようになってしまった。木全体が一気に枯れてしまったのではないが、木の上部半分に新芽がつかず、枝が枯れたような状態になっている。この木に関しては老木であることから、これが自然なことなのだろうと受け止めてはいたが、十月に入った頃に木の根あたりにキノコが生えているのを発見した。今までも枯れた何本かの木にキノコが生えていたことを思い出し、初めてその深刻を感じたようなことだった。

かつて青梅市の梅が「ウメ輪紋ウイルス」に侵されて全滅したことを思い出した。折しも庭師さんが境内の剪定に来ていらっしやっただので、お尋ねしたら「猿の腰かけ」ではないかといわれ、すでにこの木は菌に侵されているので、回復が難しいのではないかと言われた。できることは殺菌剤を土に撒くより仕方がないと。

「ああ、ついにこの木も枯れてしまうのか」。

十年ほど前にも老木の「満天星つつじ」にてっぽう虫が入って枯れてしまい再び落ち込んでしまったことがあるが、今回はそれ以上に辛い思いになってしまっている。

光受寺のシンボルの存在であったこの梅一本で、多くの人との出会いがあり、それが縁となって人生が心豊かになったことを思うと、感謝の思いが湧きおこってくる。できるだけの手当をし、少しでも回復してくれたらと願うばかりだ。

報 恩 講 十二月八日(日)

9時半～15時

門徒総会 15時～

法話 倉住 秀悟師



元気だった頃の飛龍梅と、今年の飛龍梅

お寺サロン

2周年記念

光受寺にて

—エレクトーン ミニコンサート—

早いもので、この企画を始めて、もう2年が経ってしまいました。若院たちの「お寺を活性化したい」という思いで始めましたが、毎回多くの方にご参加いただいております。今回は2周年記念ということで、当寺の若坊守がミニコンサートを担うことになりました。

仏教讃歌から、演歌まで参加者の皆さんと共に歌い、大いに楽しむことができました。参加者の中からはリクエストも出て熱唱される場面もあり、手拍子も入ったの大盛り上がりでした。



廣専寺の若さんからは、「独生独死独去独来」という『大無量寿経』に説かれる「独り生じ、独り死し、独り去り、独り来たる」という人間の生死の営みを貫く根源的な孤独を説いた言葉をお話しいただきました。

孤独の自覚を持った上での人のつながりの喜びはひとときわ際立ってくるのではないかというお話でした。こうしたことを思うと、この「お寺サロン」という場も意味のある場であるように思えてくるのです。

12月は報恩講もあり、お休み月とはなりますが、来年も継続するようですので、心強く思っています。これからの課題としてはもっと参加寺院が増えることでしょうか。



今年最後の学習会。(歎異抄に学ぶ)

去る十一月十六日(土)今年最後の学習会を開きました。

今回の第十一章からは『歎異抄』の後半にあたる「歎異編」を学ぶことになりました。これは親鸞聖人が亡くなられた後、聖人の教えと異なる教義がはびこったことを歎いて、その誤りを正すために、親鸞聖人の弟子の一人である唯円(ゆいえん)が書いたとされる書です。

「一文(いちもん)不通(ふつう)のともがらの念仏まうすにあはて、なんぢは誓願(せいがん)不思議を信じて念仏まうすか、また名号(みょうごう)不思議を信じること、いひおどろかして、ふたつの不思議の子細(しさい)をも分明(ぶんみやう)にひらかすして、ひとの心をまどはすこと、この条かへすがへすもこの書をよめ、おもひわへべきことなり。」(下略)

意識

文字の一つも知らずに念仏している人びとに向かって、「あなたがたは阿弥陀仏の誓願の不思議な働きを信じて念仏しているのか、それとも、名号の不思議な働きを信じて念仏しているのか」として相手をおどろかす、この二つの不思議について、その詳々(くわん)な内容をほつきらゝ説明するにもなへ、人々の心を惑わせるという「うひつひ」。この二つは、おもひわへるをうけて考えなければなりません。

今月の掲示板

私って
誰?

私が私であることを証明するものって?名前や戸籍や、そしてこの顔?確かに間違いのないことですが、この私は数限りない多くの縁によって今の私がここにいるのです。それが私です。昨日の私と今日の私とは違う私なのです。その一つでもかけていたら今の私はないのです。そう思うと毎日が大切な縁との出会いになるのです。

唯円が確かめ、伝えたかったこと

人間の思いを超えた本願のはたらきを最も肝要だと心の底から受け止めたならば、すでに南無阿弥陀仏の不思議もそなわっているのだから、請願と名号の不思議は一つであり、全く異なることはないということ。

かつてご紹介しました「妙好人」といわれた人たちのお念仏を思い起こすことです。

飛騨小坂 巖立峡の秋 10月31日(木)

初めて訪れた巖立峡。紅葉はすでに始まり、美しい光景が広がっていた。また近くには3つの滝があり、霧が立ち込め西日に透けて見える紅葉の色合いが幻想的な世界を醸し出していた。「美しい。」



ここは私にとって、格別の場所となりそうな気がした。

お知らせ ぜひ御参拝ください。

除夜 会…12月31日(火) 11時〜

一年を振り返り感謝を気持ちを表しましょう。

除夜の鐘…12月31日(火) 11時半〜

元旦 会…7年1月1日(水) 午前10時〜

新年を祝うと同時に、今年もまたお念仏と共に日々を送らせていただく誓いを新たにすお正月のすがすがしい行事です。

学習会…今月はお休みです。

来年1月18日(土)午後2時より